

## オンライン版『フィヒテ研究』の 発刊に際して

大橋 容一郎

私たち日本フィヒテ協会の研究機関誌『フィヒテ研究』は、1993年11月に晃洋書房から冊子体の創刊号が発刊されました。本年は創刊満30周年にあたります。創刊号では、「創刊のことば」として当時の大峯顯会長が次のように述べておられます。

「日本フィヒテ協会」が世界で最初のフィヒテ協会として発足したのは、1985年5月19日、フィヒテ生誕の日であった。これはミュンヘンのラインハルト・ラウト教授の熱心な勧奨にも依るものであって、当時、ドイツにはまだフィヒテ協会は生まれていなかった。それから2年後の1987年12月、ドイツに「国際ヨハン・ゴットリーブ・フィヒテ協会」が設立されたが、その正式名称には「日本フィヒテ協会との提携」という言葉が入っている。(中略)われわれの『フィヒテ研究』が、協会員諸氏の、とりわけ若い研究者たちの、情熱的で尖鋭な論考を集める自由な開放空間となり、日本ならびに世界のフィヒテ研究の前進と東西思想の交流に役立つことを念じてやまない。

また同じ創刊号には、当時の国際フィヒテ協会シュレーダー会長も次のような言葉を寄せてくださっています。

Im Namen des Vorstandes und Beirates der Internationalen Fichte-Gesellschaft möchte ich Ihnen unsere herzlichen Glückwünsche zum Erscheinen des ersten Bandes der Fichte-Studien (Fichte-Kenkyu) übermitteln. Wir wünschen Ihnen Erfolg und gutes Gelingen und hoffen zugleich, daß dies ein Anlaß sein wird, die gute Zusammenarbeit unserer Gesellschaften zu vertiefen. Ich zweifle nicht, daß die Fichte-Forschung in Japan durch das Erscheinen der Fichte-Studien (Fichte-Kenkyu) nachhaltige Impluse erhält.

こうした言葉に表れる気概と精神は、創刊から満30年をへて、あらたにオンライン誌の形態で本協会ホームページ(<http://fichte-jp.org/>)に掲載されることになった、『フィヒテ研究』第31号以降においても、何ら変わるところはありません。むしろオンライン化によって掲載可能な紙幅が増加し、より充実した研究成果が掲載できるようにもなりました。協会としても、協会誌に掲載された会員諸氏の研究成果がグローバルに閲覧できるよう、さらなる努力をつづけて参ります。会員諸氏の真摯な御努力によって、小規模ながら世界的な水準を保持し続けている希有な学会である本協会の学術的な意義を、もっとも明確に体现している『フィヒテ研究』に、皆さまからのますますの御支援と御協力をお願い申し上げる次第です。